

第8回合志市地域公共交通協議会

[日 時] 平成21年6月3日（火曜日） 午前9時30分

[場 所] 合志市役所西合志庁舎 3階大会議室

[出席者] 別紙のとおり

1. 開会

[事務局]

おはようございます。定刻になりましたので会議のほうを開会いたします。まず、皆様ご起立をお願いいたします。

（起立）おはようございます。

ご着席ください。それでは、第8回合志市地域公共交通協議会を開会します。申し遅れましたが、4月1日より、企画課長をしております、濱田といいます。事務局長をさせていただきますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは議題に入ります前に、新年度となり本協議会委員の方で3名の委員の方が移動により交代されましたので、ご紹介いたします。

始めに、九州運輸局熊本運輸支局の主席運輸企画専門官のすぎまち様の後任で、山本正直様です。

よろしくお願ひいたします。あとお二人の方は代理出席となりますので、お名前のみ、ご紹介いたします。

始めに、社団法人熊本県バス協会の専務理事、名和様の後任は新井唯一様となりました。本日は代理出席で事務局次長の家入様がお出席です。

それから、熊本県大津警察署長の有働様の後任は、中島純一様となりました。本日は代理出席で交通指導係長の石原様がお出席です。

以上で後任の委員のご紹介を終わりますが、各委員の皆様のご紹介は本日、机の上に置いてあります、席次表にて、ご紹介に変えさせていただきますので、ご了承ください。

それでは会議に入ります。始めに本協議会会長の中園副市長が挨拶申し上げます。

2. 協議会会長中園副市長よりあいさつ

[中園会長]

おはようございます。ご出席ありがとうございます。

本年度も続きまして会長の役割をさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。昨年度は7回も会議でお世話になりました合志市地域公共交通計画というのができあがりました。本年度につきましては、この計画に基づきまして実証実験ですとか、あるいは、作業を具体化させていきます。運輸局のほうからの事業計画の日程もいただいておりますので、事務手続きのほうは順調に進んでおりますので、ご報告させていただきます。

本日の議題につきましては、温泉直行バスとパークアンドライドということでございませうけれども、実証実験につきましては、この他にも環状バスとか、乗り合いタクシーなど

もやっていきます。一度にはできませんのでこの会議で了承いただきながら順次やっていきたいと思っております。また、併せまして実験結果の検証も願いできましたらと思っております。それから、副市長としてのご報告でございますけれども、国の経済対策をうけまして、6月補正で補正予算を組みますけれども、その中で公共交通関係ということで、電鉄の三ツ石駅と高速バスの西合志バス停の下のほうに外灯をつけることにしております。少しでも公共交通の利用促進になればと思っております。本日の会議もまたよろしく願いいたします。

[事務局]

ありがとうございました。それでは議題に入る前に会議資料の確認をいたします。会議資料の確認をいたします。まず、お手元には式次第、それから受付の際にお配りいたしました席次表、加えまして出席者名簿、これは本日までご出席いただいた方の名簿になります。それから、もう一つが委員様の名簿、これは新しく委員になられた方を赤く文字で色を変えておりますのでご確認をお願いいたします。それから、会議資料として資料の①、というのを右上のほうに入れておりますが、それと②、資料が二つ。それからチラシをちょっと、エネーションというチラシを入れておりますので、以上会議資料になります。不足等ございませんでしょうか。それでは議題に入ります。これよりは、中園会長に議事の進行をお任せいたします。

3. 議題

[中園会長]

よろしく願いいたします。早速出すけど議題1ということで平成21年7,8月の実験運行の温泉直行バスについて事務局からご説明をお願いいたします。

[事務局]

それでは最初に資料の①をお開きいただきたいと思います。ここには7,8月実験運行の温泉直行バスについてということで、具体的には1番といたしまして実験運行計画をいうことにしておりますが、1枚目をめくっていただいて、カラー刷りのチラシを作っております。これはまだ、印刷前の校正の段階でございますので、これを本日の協議会の中で校正をいただいて、最終的に印刷に入りたいと思っております。

縦長で見ていただきたいのですが、まず上のほうが実験運行コース1としておりますけれども、主に野々島から温泉に行くコースということで、これを実験運行コース1番と位置づけております。これは7月のみ一ヶ月の運行ということで、野々島公民館から老人憩いの家を経由するようなルートになりますけれども、これは概ね前回までの協議会の中でコース等をご確認をいただいているところです。

具体的な運行時間等は電鉄さんと協議いたしまして、公民館発から憩いの家に、おおよそ10時までにつけば、温泉に入られる方の利用に従順だろうということになるものですから、逆算して9時半のスタートということで、帰りも3時ぐらいまで、憩いの家で催し物があ

ったときは、3時過ぎの出発がいいというご意見が多いものですから、そういう時間設定はしてあります。それから、下の方のカレンダーになりますけれども、日曜、木曜はバスのマークは入れておりません。ここは、既存の循環バスが運行している日でございますので、ピンク色のバスのマークが入っている所を直行バスが運行する日という風にしております。それで、中の構成等もここでちょっとご協議いただきたいんですけども、今、地図上では緑色の番号がバスの番号と結合しておりますけれども、青い文字というのが、バス停の名前ではなくして、これは大まかな地域名を地図上に入れております。地図名が中学校とか位置関係がわかるようにしておりますので、この辺がどんなかなあと、具体的に地図の中にバス停の名前を番号のところに入れたほうがいいのか、地域をそのまま、こういった形で目印的にいろいろ入れていったほうがいいのかというのを、校正アイデアご意見いただければと思っております。それから下のほうの実験コース2も同じような考えで計画しております。めくっていただいて、もう一つこれは実験コース3、これは合志区域のほうになりますけれども、こちらも同じような考え方で、時間コース設定等はいたしておりますし、曜日に関しましては、ここに関しましては、火、水、土を除く毎日運行としております。水、土が循環バスの運行の日なんですけれども、火曜日だけみどり館がお休みということもありまして、コース上みどり館を通らずに設定するコースは難しかったものですから、実験的には日、月、木、金を走らせていただくというところで考えております。

以上、これはチラシに対して、ちょっと一通りご説明をさせていただいてご意見いただきたいと思っております。それからもう一つチラシをめくっていただいて、これは7月ということでミスプリントですけれども、7、8月実験運行の温泉直行バス回送地域イメージということで、先ほどの3つのコースを概ね直行バスの対象地域として、どこを位置づけるかというのを入れておりますが、青い地域と緑の地域とオレンジの区域が温泉直行バスとしてご利用が多いといいますか、対象としていきたいという地域になります。この他の地域に関しましては環状バス等もありますので、とりあえず直行する地域をどこのエリアを対象にするかということで、これはイメージですけれども、こういった地域にチラシを今から印刷打ち出しは、今月中に、この地域に配布をお願いしたいと思っております。それからもう一つが、調査票の説明は後にしまして、一番最後のほうにカラー刷りで温泉直行バスという青いものを作っております。これは、バス車両にマグネットシートのデザインでございます。これは縦90の2m40のマグネットシートをバスの両側に一枚ずつ張るところで、こういうデザインではどうだろうかというところで、デザイン構成の段階でございますので、こうした方がというご意見等があれば、今日、ご意見いただきたいと思っておりますのでございます。

引き続き、前のページにA4縦で聞き取り調査票というものがございます。これはちょっとコンサルタントさんの方からご説明いただきます。

引き続き調査票の説明をいたします。調査票の説明の前段で資料の一番最初のページに右肩に資料1という四角囲みがありますが、1ページ目で運行調査の概要をまず説明したうえで、細かい調査表を説明いたします。まず表にありますように大きく調査項目は①②③と3つございます。

①の利用者数につきましては、これは毎日全便に乗ったお客さんの数をカウントすることです。基本的には老人憩いの家とユーパレス、或いはみどり館が基本になると思いますので、目的地になると思いますので、その施設で何人降りたかということも含めて数えます。また、西合志庁舎を通るようなコースもございますので途中で降りる方もあるかと思しますので、そういう場合はその数も拾うということで、このカウントについては運転手さんとの相談という形になりますが、同乗調査をして一週間ぐらい調べるということをきちんとやります。それが②にある OD と書いてありますが、発地、着地のことですが、OD 調査ということになります。どこのバス停から何人乗ったか、どこで降りたかというような調査をいたします。この調査をすることで、現状、循環バスが走っておりますけれども、循環バスとの違いですね、乗る場所ですとか乗った人数だとか、違いがでるかどうか、それから循環バスを残したままこの実験バスを走らせますので、どちらの利用が便利かということ調べます。具体的には③であります様に同乗調査をいたしまして、利用した方にお話を伺うということをございます。その具体的な調査の内容が先ほどの資料の 2 枚ものですね。先ほどバスのボディに張るカラーの色を説明しましたが、その前にある 2 枚ものです。一番上に温泉直行バス乗客聞き取り調査票という風にあります。

こういうものを準備してバスに乗り込んでお話を伺うということ。上の四角囲いの中は基本的なことですが、黒い四角で項目を立てております。年齢、性別、同伴形態それから、どこのバス停から乗ったか、それから今日はどこまで行くかというようなことを基本的に聞きます。それから、直行バスの利用の回数、それから、ほぼ全曜日走らせることになりますので、よく利用する曜日は何曜日か。或いはその理由は何か。それから直行バスの運行が最も望まれるのは何曜日がいいですか。というようなことを理由も含めて聞きます。循環バスは残したままの実験になりますので循環バスは利用しているか、ということも聞きます。循環バスを利用していないという場合は、この直行バスのみを利用したということになりますので、その理由を聞くという形になります。それから循環バスにつきましては週にこれまでどのくらいのペースで乗っていたか。多い方は週に 2 回通りますので、2 回全て乗っている方もありますし、たまにしか乗らないという方もあります。循環バスの場合はどういう所に目的をもって乗っていますか。というようなことを聞きます。

それから、最後の 2 つの黒い四角ですが、循環バスと比較してですね、直行バスの良いところはどこか。或いは、最後は循環バスの改善点はどこかというようなことを聞きます。この比較をもって最終的には直行バス循環バス両方運行し続けるというのは前提として難しいと考えられますので、地域によってはどちらか片方のほうがいい。というような結果になると思いますので、そういう判断をするということ形になります。

それから次のページから 3 枚は、3 ページは実際に何人利用したかというのを記録していくという為のシートです。網掛けをしているところについては、循環バスが走るということで直行バスの運行がありません。というような意味です。白い空欄のところ毎日、何人乗ったかというようなことを書いていきます。3 コースそれぞれ運行日が違いますので、この 3 ページに運行がある日について、白い欄で書き込めるようなシートを作っております。具体的に運転手さん等にご協力していただいて書き込む調査票は、もう少し使い勝手

のいいものにするとか、日々、1枚ずつ使うというようなことがあるかもしれませんがけれども、最終的には、このように、ひと月間の運行の一覧表を作るというような形で、曜日ごとも、利用の多い、少ないというようなことを分析したいというふうに思っております。以上です。

[中園会長]

ありがとうございました。温泉直行バスについて運行計画、チラシを中心に説明いただきまして、調査票の説明をいただきましたけれども、まず、運行計画のほうから何か、ご質問、ご意見ありませんでしょうか。

事務局のほうから、バス停の表示といいますか、地点の落とし方ですね、これについて、こういう形でいいかどうかということだったんですけれども、その辺、如何でしょうか。すいません。バス停名と地点の書き方を変えた意図ってというのは何なのですか。

[事務局]

当初、これには青い太文字のゴシックの文字が入っておりませんでした。第一校の段階です。ぱっと見、地元の方はよくお分かりになる方もおられるかと思うんですけれども、地域名が入っていないと他の地域の方とかですね、関心のある方が見られた時に、どこのどういう地図なのかというのが分かりにくいというのがあったものですから、これは、バス停の名前というよりは地域の名称を入れたつもりで作っております。ただ、この段階でバス停名なのか、地域名なのか紛らわしいような印象がありますので、これは、はっきり割り切ってバス停の名前なら名前を入れたほうがいいのか。と今、第二校を出す段階で思っておりますけれども、具体的に西合志中学校とか弁天山とかいう記入をしておりますけれども、これは、バス停に関係なく地域の目印になるような説明をいれておりますけれども、見た感じ紛らわしいということであれば、番号の横にバス停名を入れていくということではどうか。ということもちょっと案として持っているんですけれども、その辺を委員の皆様にご意見いただいて、ぱっとみた感じの印象で、見にくいのかどうかという、ご意見をいただきましたかったというところです。

[吉永委員]

地点はいいんですけれども、若原の中自体は全然ないんですよね。割と旧西合志地域でいう若原区とか人口的にも多いんですけれども、大通りを通るだけで若原とか全然いってないんですけれども、そのことについては如何なものかと思っておりますけれども。

[事務局]

具体的には2番のコースを設定ということでみていただくと、10番から11番の間に、若原の中を通りますけど、バス停が今のところないということなので、これは前回までの協議のなかでは、若原北というバス停が1つ10番にありますけれども、その間にバス停はどうかというのを含めて、今から印刷関係は全然問題ないんですけれども、ルートの設定上

認可関係、バス停をもう一つということで、事業者さんのほうで OK であれば、この交差点の野々島の方からきて、10番から11番に至るかどの近辺にもう一つバス停を可能かどうか、今の段階でちょっと手続きがどうなのか、とりあえず実験として7月だけこういう形でやってみて地域の意見をもらうという考え方もありますし、そこはちょっと電鉄様のほうから少し今の手続き上、7月頃のタイミングでどうかというのをご意見をいただきたいと思います。

[中園会長]

すいません。若原というバス停を設けることについて如何でしょうか。

[小田原委員]

通常、こういうバスの運行ルートを設定する場合に事業計画変更ということの認可の届けと、この場合、公共交通協議会で合意が整った場合は30日前までに届けを提出すれば、運行可能といいますか、認可になるというような形で、実際今日ですと1ヶ月きってますので、実際あとは上局様、警察、公安関係そちらあたりの協議が必要になってきまして、時間的な部分が、バス停を設置する場合どうしても、バスが道路に止まりますので安全上そこで大丈夫かどうかということと、道路の管理者の承諾と、そういったことを含めて運輸局のほうで認可いただきますので、そういった時間的な調整といいますか、そういったものがちょっと必要かと思います。それが、印刷あたりに間に合うかどうかと。ですから、どの付近が一番、利便性が高いのか、その辺が安全上確保できるのかということで調査をしまして、ということになりますので、あとは時間的な部分と実際にそういう期限は基本的に越えているといった部分もありますので、ちょっと、いいですか悪いですかこの場ではお答えしづらいです。

それから、ついでと言ってはなんですが、先ほど意見の中でバス停名称と地区名というのがありまして、今までの経験からいきますと、この表現でいきますと、バス停名と地区名というのが同じになっているバス停がありますし、そうでないところもありますので、今まで相当年数循環バスが走っておりますので、そういったバス停名称は、それまで変更しておりませんので、バス停名称で統一されたほうが、混乱はないのかなという気はしております。それと、このチラシは市政日より等で広報を配布されるだろうと思うんですが、その中で停車するバス停は循環バスと一緒に、これを走ることによって循環バスの時刻等変更ありませんというのも、どこか分かりやすいところに入れていただければいいかなと思いましたので、付け加えときます。

[事務局]

それでは補足といいますか、もう1枚の第3コースをみていただくと、21,22番が西合志庁舎と救世教前のバス停がございます。若原地域とすれば、どちらかというとならば21,22番の直行で対応もしていただけるのかなということも考えておりますので、これもちょっと補足にはなります。

[松永委員]

バス停の問題ですけれども、7月ですね、8番の辻久保児童公園前というバス停がありますけど、これは以前にも私が言うてことがあると思いますが、この辻久保児童公園というのはですね、辻久保の住民にもこの児童公園という名称に馴染みがないわけですよ。実際、児童公園として機能していないわけですよ、そして、辻久保とこの児童公園の間に合生住宅が挟まっているわけです。

だから、この児童公園前を利用されるとするならば、合生住宅の方が多く利用されると思うわけですよ。この周辺に辻久保組に加入している所帯が何軒かありますけど、若い世代の方が多くあるので、ちょっと、これはそしてまたコースの都合で小合志から灰塚へ抜けるコースの都合でここに併設されたものでしょ。だから、先ほど説明があったように、もう1ヶ月をきっておるからちょっと難しくはなかろうかということもありますけど、これもちょっと付け加えておきたいと思います。よろしくをお願いします。

[中園会長]

ご意見をいろいろいただきましたけど、まず、若原のバス停についてですけど、期間的には7月運行には間に合わないということなんですけど、8月運行だったら、こちらの西合志のほうで若原の方たちは乗っていただけるんじゃないかということですね。

[宮崎委員]

今、若原の件でお話がありましたけど、この10番というのは住宅関係がまばらなんですよ。本当に。何軒かあるぐらい、数えるほどしかない。ただし、中学校から出た所あたりであれば少しはあります。それと、先ほどおっしゃってあった11番と10番のこの中間の地区であれば最近また新興住宅がだいぶ増えていきますから、できれば是非お願いしたい場所ではあります。15番をもう少し北、ここを北とおっしゃるならば、南に移動させてもらいたい。という考えはあります。

[中園会長]

バス停の移動というのは今からでもできるんですか。同じ理由で期間的には無理なのではないか。

[小田原委員]

移動というものも同じような理由になります。

[中園会長]

若原北にしたというのは、要するに今まで循環バスがここに止まっていたということですか。

[宮崎委員]

まず北は、利用価値がほとんどないぐらいのものですかね。

[中園会長]

循環バスのバス停からして考え直さないといけなかった訳ですね。もともとですね。辻久保の件ですけど。説明していただいていた方がいいですか。

[事務局]

既存の循環バスのマップでいきますと、運行コースを決める段階で通れるコースというのを設定することになるものですから、当時だとすべての区を効率よく回れるようなコースを考えたときに、今ある 8 番のコース、バス停のところを通るルートを設定させてもらった経緯が循環バスのほうでありました。既存のルートを使う場合に直行バスと循環バスの比較という意味も含めまして一番地域から最短で温泉にいけるコースを設定したときに既存のコースも踏まえながらコース設定をやって比較を地域の方にしてもらうという考えもあったものですから、そもそも循環バスのコース設定というの、いろいろと試行錯誤しながら変えてきた経緯はあるんですけども、今走れる、バスが通れるコース設定で満遍なく地域を走れるようなコース設定を循環バスも 2 回ほどコースを変えてきた経緯もあります。そういった意味で変えてきておりますので、今回、直行バスの実験運行も 7 月に関しましては、そういった認可の関係もございますので、実験をやって調査も含めますけども、本格運行に導入する際には、そういった辻久保バス停の件でありますとか、若原のバス停の件も適正な場所に変えていくということも考慮していきたいと思っております。

[松永委員]

これは一つ提案ですけど、小合志公民館前から出て、右折して、グラウンドの手前から右折するコースでしょう。これをまっすぐ行ってですね、大津植木線に直接出るようにして、その手前に若干広い場所があるわけですよ、市道の。その辺にしたら、既存の辻久保区とか、合生住宅の人も双方とも利用でき、バスの運行もそのほうがやりやすくないだろうかと思うわけですよ。だから、よければそういった検討も 1 つに加えていただければと思います。

[中園会長]

バス停の位置は変えられないということですけど、7 月運行につきましてはですね。さっき松永委員から辻久保公園というのが皆さんに、認知されていないということなんですけど、名前を変えることはできるのでしょうか。

[松永委員]

ほとんど利用されていないわけですよ。

[中園会長]

名前を変えるという問題ではないわけですね。

7 月運行につきましてはですね、利用がないことも改めて検証するような形になりますけれ

ども、一応これで了解いただくということでよろしいでしょうか。

[宮川委員]

8月の運行ですね、上庄と福原が全然コースを外れてしまっているんですね。世帯数がものすごく多いところですよ、両方とも、上庄、福原というのは。上庄が確か200世帯以上あるんですかね、その中に全然コースに入っていないということ、福原についても百何十世帯という住宅あるのに全然コースから外れているということで、これは8月ですから今から変更できるかどうかなんですけれども、出来なければ計画される段階でこの、上庄と福原地区を検討の中に入れていただきたいというのが希望です。今は循環バスも通っていないんですかね。それで全然、上庄と福原が外されているので、そこらへんはどういう経緯で外れたのかお聞きしたいのですが。

[事務局]

循環バスは既存のコースがござります。前回まででコース設定のほうもご説明させていただいているところなんです、この前の資料をお持ちだといいますが、既存の循環バスのFコースにあたるルートを今度は乗り合いタクシーの実験コースにあてておりますので、できましたら、上庄、中林地域の方々は乗り合いタクシーで、泗水方面や南団地のほうへのアクセスを考えていただくように、乗り合いタクシーのコース上に設定しておりますので、今回はグルグル回るバスのコースというよりは、どちらかというと日向・新迫から竹迫を通して一本で直行でいけるような実験ということを踏まえて、こうなっています。どうしても乗り合いタクシーよりもバスのほうが便利がいいと、既存の循環バスのコースのほうがタクシーよりもいいということであれば、バスのほうの頻度をあげるとか、そういったことで、検討していいと思いますけれども、今回は上庄地域は、乗り合いタクシーを実験の対象として取り入れていきたいということで、福原のほうも入っています。そういうことで今回は、直行はなるべく真っ直ぐいけるようなコース設定ということで配慮しております。

[宮川委員]

乗り合いタクシーを使うのであれば、乗り合いタクシーを使ったときの調査も一緒にやっていただきたいんですね。そうしないと、調査をやっておかないとどちらがいいというのはあがってこないと思うんですね。そこでも合わせて調査されるときはタクシーを利用したときも調査をやっていただきたいと思います。

[中園会長]

直行バスを利用した人の調査はできるんですが、利用できなかった人の調査というのはどこでするんですか。今みたいに、上庄、福原についてはできないですね。

[事務局]

乗り合いタクシーの地域には勿論、乗り合いタクシーの利用の仕方でありませうとか、そういったものもご説明しなければならないので、モニター的に登録していただくのか、そういったアンケートは当然、調査を行うところで予定いたしますので、ここは直行バスというよりは循環バスと乗り合いタクシーの比較ということで考えていただいて、直行バスのコースに入れるかどうかというこまでは、今の直行バスの試験だとこれではないものですから、直行バスがいいということであれば直行バスのコースをもう一つ設定して、また来年度でも計画しなければならないのかなというふうに思います。

[中園会長]

上庄、福原地区については循環バスと乗り合いタクシーで今年度はやってみるということです。

[松永委員]

先ほどの乗れないものの調査はどうするのでしょうか。私は区長協会のほうの代表で参っております、よければ検討会のほうで、対象地域で区長さん方々にお願いすることも一つの方法であると思います。もう一つは、ここまで計画を進んでいる段階だからですね、利用していただく方々にこれを早くPRしていただき、せつかくの計画ですから、出来る限り多くの人に利用されるように、先日の区長協議会等でも、市長のほうからも合志市は高齢化率が下から2番目という発言もありましたけれども、合志市は南と北において、北のほうは過疎地域で高齢化率も相当進んでいるわけですね。そのための計画だろうと思います。一つはですね。だから、多くの方が利用していただくために計画を早く実行段階に移す前に、多くの人にこれを知っていただくようにPRに努めていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

[中園会長]

PRのスケジュールについて申し上げます。

[事務局]

具体的にこの7,8月の直行バスに関しましては、ご覧のチラシを配布するのとバスのほうに乗りまして、チラシを利用される方に配って、ご近所の方にもお知らせ申し上げますという形で、今月チラシが刷り上がった段階からバスに乗り込んで直にチラシを手渡しで配布しようと思っております。あとユーパレス弁天とか老人憩いの家あたりにも出向きまして、チラシの配布なり置かせていただくようなことでPR活動に努めていきたいと思っております。よろしくおねがいします。

[中園会長]

市の広報にも載せるんですか。

[事務局]

資料の 2 番のほうになるんですけど、資料の 2 番の 2 枚目裏面です。これは 7 月の広報の原稿で後ほど見ていただくところであり、パークアンドライドの下のほうに地域公共交通に関する実験運行を行います。というような、前振りというような形でとりあえず載せていただいて、チラシ配布は直行バス、環状バス、乗り合いタクシーと配布いたしますので、こういった地域公共交通に関する実験運行に取り組んでいきますというような事前の告知といえますか、そういったものを考えております。それと、社会実験のポスター等もパークアンドライドのポスターと併せてつくっていくところで今、準備しておりますので、公共交通の利用促進というような意味を含めたポスターの作成を考えております。これは、パークアンドライドを含めてポスターも作って利用する市内各所に掲示するようなことで予定しております。広報の原稿は後ほどまたみていただきますが、こういった形で考えております。

[中園会長]

広報についてはそういうことです。ほかにご意見ございませんでしょうか。8 月限定の直行バスのことなのですが、カレンダーの上にはですね、火水土日を除く毎日運行と書いてあるんですが、ちょっと 3 日間を除くと毎日運行とは言わないのかなという気がするんですが、如何でしょうか。

[事務局]

具体的に日月木金の運行というような書き方に変えさせていただければ、そのようにします。

[事務局]

事務局に任せていただくということで、よろしいでしょうか。そうしましたらチラシのほうはご了解いただいたということでよろしいでしょうか。次の聞き取り調査票についてご意見がありましたらおねがいたします。

[溝上副会長]

料金は適切ですか。とかそういうのはありましたか。
100 円ですよ。

[事務局]

一番最後に料金設定というのはあります。
一番最後の四角、環状バスの改善点は？の 3 番ですね。100 円と具体的には書いてありません。

[溝上副会長]

これは〇をつけさせるんですか。一個一個についてやっぱりどう思うかというのを聞かないといけないのではないのでしょうか。運行、時刻設定についていいか悪いか、どこか選んでもらい1から5までについて、それぞれ評価を聞いたほうがいいような気がします。それと、料金に私がこだわるのはですね、いろんなこういうコミュニティ系のバスを維持させるのに安いにこしたことはないんだけど、維持管理といいますか、今回熊電のほうで運行していただくんですが、将来的にこれをやっていただくのに赤字でしようがないと、市の財政も補填が出来ないということだと、廃止しかないような場合がでてくるわけですね。そういうときに、無くなってもいいんですか、なくなるよりは、もう50円とれるようなことをやって運行している地域はたくさんあるんですよ。そういうところは無くないんです。ところが、いやだというとなくなってしまふんです。本当に無くなっていいのかということが大事なので、今回はいいにしても、利用促進につながると思うんだけど、みんなで作っていくバスなんだという雰囲気はどうにか盛り立てるといえるのか、料金の支払いも含めてですね。そういう運動だとか、考えを地域でもっていくことが重要じゃないかと思っているので、特にこの100円というのが適切な値段なのか知りたいと思って感じをもちました。もう一つ、利用促進の方法ってほかに考えていないのですか。宣伝、広告だけではあまり乗らないと思うんですね、今までより格段に利用者が増えるようなことにはならないと思うので、例えば、ユーパレス弃天とかそういうところと一緒にあって、ちょうど行ったら企画があるとか、乗ってきたら何かもらえるとか、最近流行のエコポイントじゃないんですが、温泉バス直行ポイントとか、そういうのを設定していただいて加盟した商店街では何%引きかできるとか。単一の温泉直行バスだけの広告とか試行をやっても需要の増加はあまり見込めないといいますか、何かと組み合わせで街全体で何かやっていると、いうようなことが必要なような気がします。そのあたりも考えていただけたらいいかと思います。

[事務局]

広報等、仕掛けのやり方だと思うんですけども、すぐに何か出来るとすれば、その行事関係がユーパレス弃天、老人憩いの家等であれば、タイアップということも想定できます。あとバスの乗車のチケットにプラス温泉のチケットをつけるというような売込みも今後考えていかなければならないと思っております。回数券的なものなんですけれども、それに温泉チケットを入れるとかですね、あと、スタンプみたいなものを作るとか、そういったものも、ソフト的な事業として今後展開していかなければいけないとは思っております。これには、内部的な商工あたりとも連携してそういった取り組みができないかどうかという構想的にはありますので、とりあえず、こういった運行の仕方というのを試しながら、そういったソフト事業もからめていきたいという考えもありますので、これも実験という意味ではそういうPR活動も含めた利用促進策というのも計画の中のひとつとして入れていきたいと思っております。すぐ、何ができるのかというのは、事務局のほうでも考えさせていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

[中園会長]

料金設定のほうは如何ですか。

[事務局]

アンケートの中で、ご指摘の内容です。アンケートのほうにも手を加えていきたいと思えますので、料金のほうも具体的にいくらが適正か、というのも含めて問いかけの仕方も考えてみたいと思えますし、設問の選択肢ももう少し分析できるようなものに変えていきたいと思えますので、また、先生にご相談しながら作っていききたいと思えます。細かい調査まで対応できるようなものを、変えていきたいと思えます。

[宮川委員]

身障者手帳をもっている方が公共交通機関を使った場合50%引きとかありましたよね、この場合はやられるんですか、やられないんですか。やられないのであれば、私たちも団体に周知させないといけないことがあるので、そこをはっきりさせていただきたいんですが。

[事務局]

これは認知的には、運行上、路線の認可ということになってはいますが、電鉄さんどうですか。

[小田原委員]

一般的な路線バスと同じ位置づけにしておりますので、そういったことになると、対応しているということで今も運用しております。ですから、100円の場合50円とか、子どもさんの場合30円とか、そういう運賃形態になっております。

[宮崎委員]

この聞き取り調査の件でちょっと、お伺いしたいことがあります。例えばこのバスの聞き取り調査委員ということですが、これは、抽出する調査ですか、それともバスに乗った方全員に調査委員として調査をされるわけですか。

[事務局]

一度にバスに乗れる調査委員がせいぜい2人ぐらいですので、運行中にその乗った方20人全員に聞くことは基本的にはできないんですけれども、1週間なら1週間を通して乗る形になりますので、かなりの数の人は拾えるだろうと思えます。ただ、もれなく全員ということにはならないと思えます。限界がありますけれども、できるだけたくさん聞きたいとは思えます。あと、実際にバス停からこの集落の人たちが連れ立って乗ることが多いと思えますので、目的地や回数は比較的、グループ単位で聞くことでかなり把握ができると思えますので、問題はないと思えます。

[宮崎委員]

ただ注意していただきたいのは、耳の遠い老人がかなりおります。それと、運行中でないといけない状態であると聞き取り調査が出来ないというような状況ですから、もし、最終的にこの項目を読んでいるだけでも1人2分以上かかるわけですね、そうしますと10人するためには20分以上かかる。そうすると年寄りはいらいらして、何をいつまでもしよるとかというような格好にもなるとも考えられますので、この聞き取り調査は、なるべく丁寧にしていただきたいというのも一つですが、曜日を区切ってされるのか、1週間なら1週間連続でやるだけで、あとはされないのか。そのへんの状態も今後考慮に入れていただきたいです。

[事務局]

まず、耳の遠い方がおられるというのは確かですけれども、今までの経験ですと比較的というかよく協力していただきますので、あまり心配は要りませんが、ご迷惑がかからないようにはしたいということと、あと、曜日が基本的には循環バスが走らない曜日は全て走りますので、全ての曜日について聞き取りをするという形になります。

[中園会長]

戻りますけど、障害者手帳を持った方の割引については、割引をしていただくということでもいいのでしょうか。循環バスもしているのですか。

[事務局]

循環バスも一律料金という設定で今まで運行しております。その辺を含めて循環バスの料金は今まで100円だったというふうに設定しているという経緯というのは、また詳しく電鉄さんと、どういった経緯だったのかというのもありますけれども、ずっと100円で走っていますので、その辺は、見直すということで、循環バスも含めてということであれば、協議会のご意見を伺って設定の条件を考えさせていただければと思いますが、循環バスも含めてそこは検討する余地が十分にあるのかと思います。

[中園会長]

今循環バスはしていないということです。扱いがバラバラなのもおかしいと思いますので、統一の方向で、事務局のほうで統一するように検討いたします。

[松永委員]

この聞き取り調査のことについてですが、もう少し単純にできないですか。さっきこちらからも話がありましたけれども、耳の調子も悪い方もおられるならば、回答者が少なくなるのではないかと思うわけですね。もうちょっと、項目を単純にしたほうが逆に聞き取り調査の効果が上がるのではないかと思います。多くの人に聞き取りができるのではないかと思います。

[事務局]

まずこの調査票には細かく書いてありますが、基本的には調査員が手持ちでもって、これに従って聞いていくときに便利がいいように作ってあるものです。これについては、バスの中で記入していただくとか、着いた先で書いて返してもらうというものではありません。ですから、調査の聞き取りの項目が人によってバラバラにならないように最低限のことをまとめておまして、できればこれについては、基本的には短時間で終わるように工夫しながら、この項目についてはお一人お一人、ないし乗ったグループについては代表の方に一人についてこの内容をすべて調査させてもらいたいと思っております。これまでにも、こういう調査があったかと思いますが、だいたいこれぐらいは聞いております。ただし、今回は温泉直行バスになりまして、運行時間が少し短くなっております。今までの循環バスは遠回りしておりましたけれども、その意味で少し余裕がないかもしれません。人数たくさんサンプルがほしいときは、少し長めに調査してできるだけたくさんの人に聞きたいと思っております。今回これを書いて出さない。という言い方をするものではありませんので。

[吉永委員]

一番最後に循環バスと比較して、と書いてありますけれども、単純に循環バスとどちらがいいかという感じで聞いてその意味を聞くとか。もしくは、循環バスと直行バスが必要かということ聞かれたほうがいいのかなという気がします。それと、全体的な表記なんですけれど、この協議会で運営運行するバス自体の名前が温泉直行バスという表記になっていますよね。温泉というこの表記が公共的に使うものに関して温泉直行バスでよろしいのかどうかということに少し疑問を感じるというか、これでみなさんがよろしいということであればいいんですけれど、民間が運営するわけではないので温泉行きという表記ですね。このことについてちょっとお尋ねしたいと思えます。

[中園会長]

温泉という表記でいいのかということですね。
温泉じゃないところにもいくからですか。

[吉永委員]

温泉行きというイメージ的にですね、ユーパレス弁天にしても温泉は温泉ですけど、施設としては、公の場でしょう、公の場に行くのに温泉という表記でいいのかなど、ちょっと感じるもので。

[中園会長]

この検討は如何ですか。

[吉永委員]

はっきり、温泉と出ていて行楽用のバスではないので。

[中園会長]

分かります。

愛称じゃないですけど、それに近い表現になるのでしょうか。

皆さん如何でしょうか。温泉直行バスということですが、事務局としてはどうでしょう。

[事務局]

そもそも、循環バスのコースを直行で走るという試験のやりかたを想定しております。実態的には温泉に行かれるのがメインという実態があるものですから、分かりやすい表現ということで協議の中でも使っていましたし、特に違和感なく協議会の中でも温泉直行バスというような言い方をしていたものですから、結果的にこういう実験の名称になりましたけれども、これが、温泉直行バスではない運行ですよということだと、イメージ的には運行自体が、お年寄りが温泉に行かれるのによく利用されてるバスという意味合いがこめられているものですから、また環状バスとか、そういった意味合いになると違いますけれども、地域のコミュニティバスという位置づけの中で温泉行きというイメージで作ってありますので、他の言い回しがこういったものが、というものがあれば、逆に委員の皆さんからご提案いただきたいと思っておりますけれども、実験の主旨としてはそういう地域の高齢者の方が使われているユーパレス、老人憩いの家に行かれている、温泉行きという意味で使わせていただいていると、一ヶ月の実験ということで、とりあえず、こういうかたちで、先々、地域の直行バスということでなく、もうちょっとコミュニティ的な位置づけとして、何かしらコース設定とかいうことであれば、また、愛称とも加えていかなければいけませんし、先々の構想としては合志市の公共交通のイメージキャラクターとか愛称といったものを公募していきたいと考えております。実験の名称として使わせていただけたらと思います。

[中園会長]

運輸局さんの事業計画日程もいただいておりますので、一応今回これでやらせていただいて、何か不都合があればそれも併せて検証するというところでよろしいでしょうか。

最後にデザインですね、温泉バスを表示するデザインについて何かご意見がありましたらお願いいたします。

[事務局]

今バスの車体につけるマグネットシートで左肩に100円とうってありますけれども、これは、ぱっとみて100えんで乗れますという、子どもさんの料金は乗ったときに割り引きということで、先ほど料金の割引のこともありましたし、イメージ的にも100円で乗れるというのがいい印象を与えられるならということで、仮に100円という表記をいれており

ますけれども、ここの、有り無しといたしますか、良し悪しをご意見をいただけたら考えております。

[中園会長]

100円ということもPRしていくということですよ。

[事務局]

実験的には100円で乗れる温泉行きのバスですよというイメージを与えたかったものから、単に温泉直行バスということではなくして、ワンコインのバスというようなイメージでどうかということだったんですけれども。

[中園会長]

如何でしょうか。

[事務局]

既存の循環バスだとコース名を入れたものを立てておりますので、そういったものの工夫も電鉄さんと話して、シールを貼るとか、立てかけるだけでも・・・。

[中園会長]

バス正面も考えていただくということで、結局、三箇所になるんですかね。

[事務局]

正面はマグネットというよりは、バスのダッシュボードあたりに貼るとかラミネート加工したカードを作って立てかけるというようなことでもできるかなと思いますので、車体し次第では貼れるスペースがないかなどもあるかもしれませんので、そこはバスを確認して電鉄さんとも話し合ってみたいと思います。

[溝上会長]

バス停はどうされるのでしょうか。

[事務局]

バス停はこのチラシそのものを網で通したものを貼ろうかという考えもあります。7月ひと月、8月ひと月なものですから、実際配るチラシをバス停に貼ったほうが分かりやすいのではないかと考えておりますので、バス停には、よければこれをそのまま、ラミネートといたしますか、透明の加工をして、雨、風に耐えられるようなものにしておいて、ひと月間、掲示させていただければと思います。

[松永委員]

バスはどのくらいの大きさを計画されているのですか。

[小田原委員]

今のところ中型バスです。今走っているものより一回り大きなものです。

道路によっては厳しい場所もありますので、そのときには、今の既存の大きさでないと、ちょっと厳しいコースもありますので。利用のお客様の数というのがはっきりわかりませんので、できれば、大きいバスでたくさん運びたいという思いもありますし、安全上の問題でどうしても、車が小さくないと離合等できない部分もあります。それは、今チェックをしているところです。それから、シールの大きさなんですが、走る車のサイズによっては縦90センチというのは、マグネットシートの場合どうしてもデコボコがあるとひっつきませんので、若干細くなると、長さの2.4mなら大丈夫かと思います。長さはたぶん大丈夫だと思います。乗降口をずらして、後ろのほうになりますけれども、たぶん大丈夫だと思います。縦90センチというのはちょっと厳しいかもしれませんが、60センチから50センチぐらいになるかもしれません。基本的には車両に貼り付けしてという風に考えているんですけれども、突発的な故障であるとか、いろんな部分があって車を変える場合ステッカーが貼れなくて、トラブルが起きるのも困りますので、そういった万能なサイズというか、そういったもので、打ち合わせをしていただきたいと思います。

[中園会長]

最初事務局からありました100円という表記についてよろしいでしょうか。これで進めさせていただきますと思います。

それでは、議題2ということでパークアンドライドのほうにつきましてご協議お願いしたいと思います。事務局のほうから説明お願いいたします。

[事務局]

議題2、資料の2番になります。パークアンドライド実験運行運用開始ということで、工事が最終段階にきております。区画線等を入れる前の段階まできておまして、資料の実験の概要からお説明いたしますけれども、駐車台数71台、これは現在の案なんですけれども、合志市民、例えば51台、合志市民でない方、市外を20台、身障者スペースを2台、ということで、こういう割合といいますか、これも、合志市民だけに71台ということもありますし、市内市外半々、ということも考えられますし、実験ということで、とりあえず、市外利用者も少しは枠を取っておいたほうがいいのかという考えもありまして、仮に案として設定させていただいております。それから、対象者といたしましては、基本的には新須屋駅から定期券を購入いただく、通勤通学に主に利用されている方です。それから、利用料金ですけれども、一ヶ月あたりこれは事業者さんと協議いたしまして、最初の実験の取り掛かりとして、とりあえず、合志市民を1,500円、日に換算して1日50円、市外利用者を月2,000円、という設定でとりあえずどうだろうかということで、これは、電気代とか清掃或いは見回り等があればそういった人件費に必要な経費ということで使わせていただくということです。

それから利用時間ですけれども、基本的に電車、バスが運行する時間の利用ということに

なりますし、施設の照明は暗くなってから、例えば 12 時ぐらいで落とすというタイマー設定にしますので、最初の実験としては施錠をせずに、フリーで駐車をすると、違法駐車等は日中取り締まるということで、夜間の利用というのはちょっとどうかというのがありますけど、朝夕夜の施錠ということになりますと、また、人件費かかりますので、これは運用しながら必要であれば施錠もやっていうということで、オープン当初はとりあえず、開放した状態でやってみてはどうかと考えております。それから、管理運営ですけれども、電鉄さんと管理運営協定を結んで 3 年間の実験期間というのは、当面、電鉄さんのほうで管理運営していただいて、申し込み等も電鉄さんのほうにお願いする、と既存のパークアンドライドのノウハウを利用させていただくということで、先々、市の管理になるときに条例化とそういったことも事務手続きが必要になってくると思っております。それから、2 番の検証と調査の概要ですけれども、これは、利用者の方に登録されたときをお願いしてアンケートを実施するというので、アンケートの内容もまた、後ほどご説明いたしますが、先に 1 枚めくっていただいて、まず周知になりますけれども、これはチラシの案です。地図を真ん中に入れますけれども、これは今月に早速、回覧で市内全域に回覧をしたいと思っております。それから、次のページには先ほど見ていただいた広報の原稿になりますけれども、利用条件とかパークアンドライドの主旨とそういったものを広報の 7 月号に載せるところで広報スペースをとってあります。下のほうに先ほどの公共交通の実験運行というような周知の仕方です。それから、次のところに横長になりますけれども、利用許可書というのを利用者の方にお渡しすると、これも案ですけれども、こういったものを利用者の方は常に車のダッシュボードの上に見えるところにおいていただいて、その方の対象車両なのかどうかというのを外から見て、管理者が管理する上でわかるように、こういったのを発行するというにしたいと思っております。それから次のページで、A3 横でカラー刷りがございます。これは、具体的に区画線わりの予定ですが、赤い数字が今度利用しているもので、青い数字は校正前のものでして、右上のほうから 1 番から右のほうに、右側が新須屋駅になります。左側が市道須屋線になります。右側の駅に近いほうから 1 番から 37 番、下のほうに 38 番から 71 番ということで、右側に車が 2 台書いてありますけれども、そこにくちを開けまして横断歩道をつけるようにしております。利用者の方は、車から降りて、ここから駅のほうに行く通路として利用いただくというふうにしております。出入り口は赤数字の 43 番と 44 番の緑色の扉の絵を書いております、ここが車両進入口ということにしています。今週、ラインの割り振りを終わらせて、来週には竣工できるような段取りになっております。以上パークアンドライドの運営の条件とかそういったお知らせ関係でございます。続きまして、アンケートのほうを説明します。

続きまして最後の 2 枚アンケートを利用者調査の説明をいたします。両面刷りで同じようなものが 2 枚ありますが、これは申請時のアンケートと利用して中間時点のアンケートと 2 時点分のアンケートをのせております。まず、1 枚目は申請して利用するとき利用者の方に協力をお願いするものです。黒四角で項目を立てておりますけれども、氏名とか先ほどの駐車するとき使う登録番号ですね、それから住所、勤務先の住所、場合によっては学生もいるかもしれませんので、通勤通学先というふうになります。それから、どういう職業をさ

れているか、職業の中でも通勤の場合、事務系の職業なのか、営業なのか、製造製作なのか、輸送なのか、その他というような形で細かく職種を聞くようにしております。それから、真ん中あたりですが、従前マイカー通勤の場合の状況について聞きます。まず、自宅から勤務先までのおおよその移動距離、これは自動車のトリップメーターで測っていただくようなものですが、だいたい何キロか、それから、自宅から勤務先までの移動所要時間、これは、通常の場合と渋滞が発生した場合、行きと帰り、だいたい何分ぐらいかかるかというのを聞きます。それから 3 番目、出勤時間と帰宅時間ということで、マイカー通勤をしていたときの自宅を出る時間、勤務先につく時間、退社をする時間、帰宅する時間というものを、バラつきがあるかもしれませんが、一般的にこの時間で出勤しておりますということで聞きます。上のページにいきまして、通勤ないし通学先で駐車場をどうしているかということで、駐車場の場所が勤務先からどのくらいはなれているか、駐車場の種類は会社や学校のもので、ただのものなのか、月極の民間のものなのか聞きます。それから、駐車場の代金、熊本市内に勤めていけば、民間であれば月 1 万 5 千円とか 2 万円というのを払っていると思いますので、その額を聞きます。それから、駐車場の負担として全額自己負担なのか、一部を負担しているのかというようなことも聞きます。それから、従前の通勤手当があったか、無かったか、それから、従前のガソリン代ですね、燃料代ということで、約どれくらいか、可能であれば車の燃費はどの程度であったか、というようなことを聞きます。それからパークアンドライド実験に申し込んだ理由ですね、何をメリットと感じて利用したのか、というようなことを選択肢をあげております。それから、従前マイカーが利用できなくて交通手段が公共交通だった場合もあると思いますが、その場合はどういう交通手段を使っていたか、ということ聞いております。それから今回は基本的には藤崎宮前まで乗られてそこから、勤務先、学校へ行くということだと思いますが、その移動経路を大まかに書いていただくことになります。例えば藤崎宮から歩いて水道町まで行ってそこから市電に乗って県庁まで行きます。というような簡単な経路を書いていただきます。こういった経路だとか、燃費、ガソリン代等を把握した上で次の中間地点のアンケートと連動させます。これは、ある程度利用していただいたうえで実感を聞くというものです。名前と登録番号等はききますが、利用期間として何ヶ月利用したかを聞きます。そして、パークアンドライドの利用状況として自宅から新須屋駅までの移動時間距離、移動所要時間、通常何時の電車に乗っていくのか、或いは帰ってくるのかということで、新須屋駅と藤崎宮前発の時刻を聞く、それから、藤崎宮前から勤務先まではどれくらい時間がかかるのか、出勤時間や帰宅時間、パークアンドライドをすることになった後で、日ごろ何時に家を出て、何時に帰ってくるか、というようなことを聞きます。それから 5 とありますが、修正で 6 番ですが、パークアンドライドによる通勤通学の費用はいくらですか、ということで、自宅から新須屋駅までは車できますので、そのガソリン代、それから、電鉄の電車の定期代、それから、パークアンドライドの駐車料金、それから藤崎宮前から勤務先までの交通の費用、交通手段と費用を聞くという形になります。そして、最後のページは具体的にパークアンドライドを利用してよかった点はどのようなことか、大変だった点はどのようなことか、それから最後にこのパークアンドライドの実験の内容を含

めて改善点や提案を書いていただくという形になります。最後に※印と注意書きがありますけれども、これは中間時点のアンケートですので、ここで移動経路だとか、費用等を教えていただきますので、従前の自宅から勤務先まで全部マイカー通勤だった場合のCO2の発生量でありますとか、そういったものも簡単な計算ですけれども計算をして、パークアンドライドにやりかえることによって、地球環境に対しては、これくらいの貢献をあなたはできましたよ、ということ計算して示したうえで、そういう効果を知ったうえで、今後交通手段として、何を選ぶか、個人の考え方が変わったかどうかということ聞いてみたいと思います。いわゆる、トラベルフィードバックプログラムというもので、こういう効果を分かったうえで人の行動が変わるかどうかなどいうようなことを対応しながら交通マネジメントをしていくということが大事になってきますので、そういったデータを経て今後も公共交通促進につなげていくようなデータも得たいと思っております。以上です。

[中園会長]

まず、実験運用のほうで、チラシとかレイアウトについてご意見ありましたらお願いします。

[吉永委員]

利用許可書ですね、許可車両番号ということになっていますけど、その本人さんに許可を出すわけですよね。車が2台あるところとかありますよね、許可車両番号を入れるのがいのかというのが、ちょっと疑問があるのと、電鉄さんが管理をなさるということですが、違法駐車ですね、住宅地なので、まして施錠しないとされたときに許可車両番号を持った人がいざ来たときに車が止まっていたとか、大変な思いをされるわけですよね、そこらへんを、どういった対応をするのか、撤去するのか、どういう対処をして違法駐車に対してはどうする、という議論を、ある程度取り決めをしておくのかということはいかがでしょうか。

[事務局]

許可証の車両番号ですけれども、考えまして、当然今はご家庭で2台というのが多いものですから、基本は定期を買われたご本人が主に使う車を登録いただいて、仮に車検で車が変わったりとかですね、奥様の車を乗ってきたりとかしたときは、臨時的にこの許可証を置いてもらえれば、その決められた車というのが、駐車番号と許可証の番号が一致したところにおいてあれば、許可車両とみなそうかと思っております。基本的には許可車両の番号を入れておかないと、抑止効果があるように違法駐車使用としたときに、許可車両まで見ているんだというのが分かれば、違法駐車しようとするものは、見たときに考えると思うんですよね、そういった抑止効果があるように、番号と車の番号、許可の年月日利用期間等入れておけば、違法駐車は防止できるのかなという考えがあつてこういった案をつくっています。それと違法駐車に関しましては電鉄さんのノウハウが黒石駅あたりであるのは、違法駐車があつたときには警告のチラシ等を貼ってやってる関係でかなり減った

ということで、電鉄さんからもちょっとお話いただきたいとは思いますが、黒石あたりの状況でもですね。基本的には実験期間中なので、こういった許可証を徹底するのと、仮に違法駐車があったときはあきスペースがいくつか出てくるかと思しますので、朝、緊急的にそういった車両があったときは、そういった空き番号をご案内して、そこに今日はいれてくださいというふうにしようかと思っております。そういった緊急事案も具体的に黒石あたり例があったかと思しますので、そういった状況を、お話をいただけたらと思います。

[松村委員]

今、利用についてですね、問題ですが、許可証については、今後藤さんから言われたとおりで、これでいいと思います。ダッシュボードにこれを置いていただいた車が許可車だという考え方です。違法駐車につきましては黒石で随分、我々も苦労いたしまして、現在、黒石につきましては約 50 台近く駐車場があるんですけども、そのうちの 4 台分をですね、違法駐車のための予備スペースとしてとってあります。お客様から電話があったら、車が止められないと電話がありましたら、何番に入れてください。ということで、そこにに入れてくださいということで話をして、空いていますか。と確認しますと、空いている。と、じゃあそこにに入れてください。と予備スペースの番号を言う。そして、お客様の止めている車の番号が分かっていますので、そこに行ってその車について警告文を貼ると、フロントガラスに貼っております。違法駐車の場合はレッカー代等全部いただきますということで表示をしております。そういうことで、今は黒石についてはほとんどありません。発足当時は何回もありました。何十回という形でありましたけども、今はありません。以上です。

[中園会長]

そしたらここにきまして最初は 71 台分ではなくて、4 台かそこらへん引いた分で作られるんですね。

[石原委員]

この駐車場の中で事件、事故が発生した場合ですね、仮に前に車を止めていた方に後からこられた方がぶつくと、こういった物損事故等あった場合我々が行った場合は、あてられた車の持ち主は、電鉄さんのほうに聞けば分かりますか。住所、氏名、電話番号等書いてありますか。

[松村委員]

今はですね、駐車場ですから契約書を取り交わしています。ですから、両方印鑑ついてもらって、私どもも印鑑ついて、契約書を取り交わしてやっておりますので、住所、名前、電話全て把握できています。

[石原委員]

開放していない場合は仮に駐車場、道路としてみます、常時開放してあれば一般の通行に利用する道路という判断ができますので、犯罪窃盗事件などがあった場合は、ナンバーを控えればすぐに分かるんですけども、今は、電話登録がほとんどなされていない、携帯しか持っておられない人がおりますので、そういう場合の連絡方法などよろしくお願ひします。

[松永委員]

ここは駐車場内に防犯ビデオかなんか設置予定ありますか。

是非そこまで進めておかないと、今も話しが出たけど犯罪等が駐車場で発生したときとかですね、また、車同士の物損事故とかですね、費用がかさむでしょうけど、今、民間の駐車場でも大部分は防犯ビデオ等の設置が進んでいますが、将来的にはどうですか。早急にはできないとしても、将来的には防犯ビデオ設置まで考えておられるかですね。

[事務局]

管理上の問題になりますけども、あとこれは運行を始めて、料金の精算式のゲートをつけるとか、施錠の時間をはっきり決めてやるとかですね、そういったものも含めて、防犯ビデオもそうなんですけども、施設の充実ということは運用をしながらやっていきたいと思っております。今すぐに料金ゲートを作ると数百万という金額になりますので、実験をやりながら施設の整備に投資するものが必要なときは、またそういったことも考えていきたいと思っております。とりあえず、当初のスタートとしては今こういった形ですけども、犯罪の抑止とか、セキュリティ関係で民間の会社をお願いするというのも、将来的に考えていくことも必要かなとは思っております。当面、スタートはこういった形態でやらせていただいて、そういった犯罪の実態があるということが出てきたときにまた、協議会でもご報告をさせていただいて、こういった実績とかこういった案件がでてきたときには、早急に対応が出来るような検討はしていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

[中園会長]

最初にありました利用料金とかについては如何でしょうか。一応、市内市外で差をつけるということで、台数とかも含めてですけども。

[溝上副会長]

このパークアンドライドというのは、非常にいいシステムだと思うんですけど、2つお聞きします。1つはいろんなところでパークアンドライドをすると、もともと車だった人がパークアンドライドをしてくれるのではなくて、バスの人ですね、パークアンドライドで、車できて、それから電車にのっていくようなことがあるんですよ、全国をみているとですね。逆に車が周辺は増えてしまった、というようなことがあるんですけど、一つのやり方としては、今何で通ってますかというのを聞いて、車で通っている人だけ許可を与えると

というようなことも考えなければいけないのではないか、と思うんです。どっとお借りになるとかえってそういうことがよくあるんです。で、そのやり方をどうされるのかということと、そもそもパークアンドライド、今後その国の土地を借りられているということなので、将来的に誰でも使えるようなパークアンドライドの駐車場システムの中の駐車場と位置づけるのか、それとも熊電さんにある程度条件が通って、経営を考えるようなパークアンドライド駐車場或いは交通システムか、どちらのほうへ向かおうとしているんですかね、これは今後考えればいいと思うんですけど、その辺はどうお考えかと。

[事務局]

利用者の対象としては、勿論マイカー通勤から乗り換えていただくというのがベストなんですけども、その辺は、申し込みの際に聞き取りでやるのか、実際のところ、乗り換えの方を聞き取りは、どうですかね、その辺は、そこまでは厳密にはできないのかなというのはあるんですけども。

[松村委員]

バスや車で駅まで来てという形、言うなら意識がある方、パークアンドライドをやろうという意識がある方にとっては必要ですし、まずは、意識付けのためにやっていったほうがいいんじゃないかと思います。

[溝上副会長]

それで、周辺がものすごく込んでしまうという駅がたくさんあるんですよ。沖縄のモノレールも、もともとバスで通っていた人が車で一つの駅までくるようになって、それから公共交通にのって、本来は車が少なかったところが急に車が増えている。

[松村委員]

おそらく渋滞する部分は減ってますから、例えば 70 台最大で 71 台という台数ですし、そこ 1 時間程度が朝の集中ですね、考えていますけれども、そこまで、大きな影響は私はないんじゃないかと思いますが、私自身は考えております。

[溝上副会長]

交通渋滞というのは車から公共交通に乗り換えてもらいたいものですから車で、この調査票は今車のことを想定しているんだけど、実は前はバスに乗っていましたということは聞けないですよ、これだと。

[松村委員]

結局バスというか、電車通勤に変わったと、電車通勤するためにパークアンドライドを使っているという感じでしょう。ただ、それをほっとくと、逆にいうならバスで渋滞の中いっても、もういいや車で行こうという話しになる可能性もありますよね。そのままにしと

けば。結局移ってきたということが定時性がほしいんだとかそういう思いがあるわけですよ、その方には。

[溝上副会長]

それはそうですけど、バスから乗り変わってもらっても困るわけでしょう。

[松村委員]

でも、厳密にそれを全部精査できるかというところ・・・。

[溝上副会長]

ですから、受付されるときに一応伺うとかですね、そういうことをやらないと何のためのパークアンドライド駐車場か分からないです。ちょうど、このあたりというのはバスで通っている人たちがたくさんいるんですよ。

[松村委員]

そうですね、ただ私共が思っていたのは、例えば新開の方ですね、新開の方は、花立のほうのバス停までですね、結構距離があるんですよ、だから、そういう方々が逆にいうなら公共交通を利用したいんだけど、というような方々が逆に来てくれたらいいなという思いはあります。

[溝上副会長]

ですから、そういう人たちを優先的に使っていただくのがいいんじゃないかと。

[松村委員]

特に須屋の団地の中の方々は駅まで結構何百メートルもあるのに、バスも何も無いわけですよ、それから、うちのバス停までも 500 メートルとか 800 メートルとか歩かなくてはバス停まで行かないわけですよ、だからそういう方々が使ってもらえればいいのかなど。

[中園会長]

一応申し込みのときに聞いていただいて、万が一申し込みが多いようだったらですね、優先的に車から乗り換える人をしていただくということでお願いしてよろしいでしょうか。

[松村委員]

ちなみに御代志は今 29 台しかないんですよ。道路に買収をされた部分もありまして。ただ、100 パーセント埋まっています。全部埋まってしまっています。それと黒石についてはですね、49 台あるんですが、そのうち 25 台が埋まっています。常時だいたいこのぐらいで、増えたり減ったりしているんですけども。

[溝上副会長]

それは料金を取られているんですか。

[松村委員]

料金とっています。御代志は、一般の方々は 5,000 円なんですよ。ただし、定期券の方は 3,000 円です。黒石は一般の方は 4,000 円なんです。でも、パークアンドライドをすれば、2,000 円です。

[溝上副会長]

それは熊電さんの土地だからいいんですよ。

[松村委員]

そうです、当社の土地だからです。

[溝上副会長]

ここは、公共の土地なので、有料で管理以外のものをとるような駐車場にするのか、それとも、フリーにしてしまう。

今こういう話が出た中で、実は付近の方から電話があったと。駐車場が足りないから、電鉄さんを通して管理委託で貸してもらえないですかというのがきたと。だから、それはできませんということでお断りしているということで、結局、お金をとるなりなんなりしないと、オープンにしてしまうと、たぶん付近の方が結構入れてしまうのかなと。自家用駐車場の自分の家の駐車場のような感じで使われてしまうのかなと。ですから、許可証をちゃんと出して、無料となると、条件もありますので、例えば定期券を買った方は無料でもいいですよといった形もできると。

[溝上副会長]

例えば料金を取ったときに誰がもらうのですか。公共の土地ですよ。

[中園会長]

この料金はどこに入るのですか。

[事務局]

先ほど説明いたしました、管理協定を電鉄さんのほうと取り決めまして、利用料はとりあえず電鉄さんのほうに利用者の方が納めていただいて、その中で電気代等、例えば清掃あたりの費用とかあれば、そういったものを精算していただいて、報告は当然協議会のほうにもご報告いただきますし、当面、社会実験として取り組む期間は電鉄さんのほうに市のほうから管理協定という形で、運行、運営をお願いするというようにしております。利用料金としては営利を目的としないというのが前提になっておりますので、これは国から用

地をお借りする場合にも、民間というよりも自治体に貸すんですよというのが、条件でしたので、管理料という扱いになります。

[松村委員]

当初は 1,500 円から 2,000 円で使うということですが、もしこれがいっぱい埋まると、たぶん電気代や管理料もそこまでいかないかもしれません。だったら料金を見直してもいいよね、という話は事務局とは話しをしてました。ですから管理料が余るのであれば、それはそれで、1 台あたりのコスト駐車料金を下げましょうという話しはしていました。

[中園会長]

駐車台数の割合ですね、市内市外の、あと料金につきましては如何でしょうか、これで決定してよろしいでしょうか。

ご意見がなければ、これで決定させていただきまして、先ほどの利用料金のこと今後検証も含めてやっていきたいと思います。

ちょっとお尋ねなんですけども、利用申し込みのときに住所まで聞かれるわけですね。

[松村委員]

勿論です。契約を結んでいないとまずい状態になると思うんですよ、相手から申し込みを印鑑をついたのをきちんともらって、うちもついて、両方で契約をとるという形でやっています。普通の一般の駐車場が、月極の駐車場がそういった形でやっておりますので、そういう形と全く一緒の形でやっておりますので、今回もそういった形をとったほうが一番ベストなのです。

[中園会長]

続きまして、利用申込者のアンケートについてご意見があったらお願いします。

今、電鉄さんにお尋ねしましたのは、アンケートのところで、住所氏名を改めて聞くようになっているんですけども、この必要があるのかな、と思ったんですね。名前さえ分かれば住所とかは自動的に分かるかなと思ったものですから。その辺は如何でしょう。

[事務局]

それは、出来ると思います。

[中園会長]

個人情報というのはできるだけ何回も聞かないほうがいいのかなと思いますので。

[溝上副会長]

私が心配しているのは、やっぱりバスからの乗り換えの人が多いと思うんです。

[吉永委員]

菊池からバスで乗って来ている人間が、菊池から車で須屋まで来て電車に乗り換えるというパターンですよ、今、おしゃってるのは。電車が菊池からなくなったぶんバスで移動されている、菊池からここまで電車に乗る、新須屋まで車でこれるのがそのほうが早いですから。とその分、家を出る時間が短縮されて。ということをおっしゃっているのだと思いますので、たぶんその可能性は大いにあると思います。

[中園会長]

バス停が遠くて無理してバスで通っていた人が、これは便利ですから、車でここまで来て、すぐ乗っていくということができないんじゃないかなと思います。

[溝上副会長]

70台ぐらいしかないから逆にそれで、ある程度埋まってしまう可能性もある。私はこれは軽く埋まると思います。

[松村委員]

黒石はですね、49台のうち、現在25台ですけど、それも何年もかかって埋まってきたんですね。で、御代志はですね、実はあっという間に埋まったんです。何で、と言ったら竹迫とかバスの不便な方がそこまで出てきているんですね、車で。だから、この辺はそれから、たぶんそういう方がおられると思います。ただ、菊池からの方で、バスから車に換えて御代志に止めてというのはそこまでないんじゃないかと思います。

[溝上副会長]

黒石と須屋はどちら側が北でしたっけ。

[松村委員]

黒石が北になりますよ。

[溝上副会長]

黒石が、北でしょう。ということは、新須屋はもっと南ですよ、都心に近いんですよ。郊外のほうがパークアンドライドは有効なんです。だから今言われたように利用者があっという間に埋まったと。内側にいけば行くほど埋まらないんです。それよりも南か……。どうなるんだろうな。

[中園会長]

念をおしたりしませんでした、申し込み時に聞いていただくんですよ。今までの交通手段について。

[松村委員]

今までの交通手段はどうでしたか。という話ですよ。

[溝上副会長]

随時受け付けですか。そうすると選別できなくなるから例えば 10 日間なら 10 日間、1 ヶ月なら 1 ヶ月間応募して、抽選というふうにして、やられるの方がいいんじゃないかと思うんですけど。だから、1 ヶ月間応募しておくわけですよ。そのあとは順次、変えていけばいいとおもいますが。せっかくのパークアンドライドが、公共交通からの乗り換えとか。辞めろと言っているのではなく、どういう方に使っていただくかというのは検討しておくべきだと思います。

[事務局]

利用の期間は実験ということで、はっきりいつまでの実験というのを、とりあえず決めるかです。3 月いっぱいまでの利用者を募集しているとか。基本的に継続していくということなんですけども。

[吉永委員]

いつから市が管理するかというのもまだ決めてないわけでしょう。

[事務局]

社会実験はこの協議会の実験と合わせて 3 年間は実験の期間として協議会の中で取り組んでいきますけども、その運営を、実験の中身を検討しながら、どういう管理体制で対象者と料金を設定するかということで、前倒しで条例化することもありますけど、とりあえず、実験という取り組みで今年、来年というふうに考えておりますけども。市道区域に入れてしまいましたので、覚書も取り交わしてパークアンドライドとして使うということにしますので、運営的には半永久的にやる取り組みではあるんですけど。その実施の内容を協議会の実験として当初取り組ませていただいて、あとあとの管理運営等も市の中でどういった取り組みの条例をしていくかというのを探っていくようなことになっておりますので、とりあえず実験も数年という取り組みの中で第一弾の利用者をどこかで締め切るという方法もありますし、利用者が区切ったときにどういう反応を示されるのか、というのもありますけど。

[中園会長]

応募をいつまでかで、一応締め切ることはできないのでしょうか。

[松村委員]

周知が非常に難しいんですよ、パークアンドライドってやってますよと。うちも黒石、コマーシャルとかにもしたんですけども、最初は 4、5 台からスタートしてそれからなかなか

か増えなくて、少しずつ周知されていくんですね。そして、今の現在の25台なんです。多いときは30台。特に女性の方が多くて、お嫁に行ったらそれでアウトなんですよ。違うところに引っ越されるから、結婚されると。で、逆にお辞めになられたり、そういう方も結構いらっしゃいますので、非常に入れ替わりというのも結構あるんですよ。中には最初からずっとやられている方もいらっしゃいますし、何回も変わっていています。

[吉永委員]

駐車料はいくらですか。

[松村委員]

黒石は今2,000円です。定期を買われた方ですね。あと一般の方が4,000円です。アパートの方が無断駐車したものですから、逆にいうなら止めさせてくれということで回りを調べましたら4,000円がだいたい平均の月極でしたので、じゃあ、それでどうぞということ。

[中園会長]

実験期間はせめて今年度やってみるとか、何かで区切らないとちょっと危険なような気がします。如何ですか。

[事務局]

実験という名目で利用者募集という形で期間を区切って、実験に協力いただけるメリットをどこかに求めないといけないと思いますので、もうちょっと料金を下げるとか、3月いっぱいの実験の協力者ということで、事前アンケートであるとか、中間と、3月終わってからのアンケートにご協力いただける方を募集するというにすることなのか、これからずっとパークアンドライドとして運営していくのを前提に整備を進めるというか、アンケートは当然、利用者の申し込み、中間ではしていただきたいと思っているんですけど、あくまでも実験という期間を設けるのであれば、利用料金等で利用者が利用しやすいような、それもマイカーに限ると、今、マイカー通勤されている方の申し込みに限ると、というような条件をもろもろつけた上で、例えば市民は500円とか、市外は1000円とか、ものすごく安い金額で実験協力者を求めるということも、どうかなというのは思いますけども。

[中園会長]

例えば、実験が1ヶ月2ヶ月とかだったら、不利益もあると思いますけど、3月までだったら利用者にそう不利益はないと思うんですけど、如何でしょうか。

[吉永委員]

最低でも1、2年とかある程度のスパンはおいておかないと、もしパークアンドライド借りようと思うのに、本当にこの実験を考えるのであれば、3月まで安い金額で勿論アンケート

トなり、こちらのほうにも協力してくれという体制をとること、どちらかに振り分けないと、もともと車を減らそうと目的ではじめているわけですから、別にそれは3月ではなくても2年なり3年なりそれはいいと思うんですよ。とりあえず、この期間が2年なら2年で、それから先は自動的に延長していいと思うんですけど、アンケートを協力してもらうというのは2年間ぐらいいは協力してもらいます。あとの料金設定は今後考えるという方向にしておかないと思います。

[松村委員]

我々としてはどちらでも構いません。問題は台数をどうやって集めるか、継続車をそのままずっと使っていただける人をどうやって残すか、というのが問題ですから。結局、70台の車が熊本市内に行かない、渋滞や環境負荷とか考えたときにそういうのがプラスになるわけですから、どうやってフルに駐車するためにどうしたらいいの、という話しだと思えます。

[中園会長]

2年間とすると、これが妥当かどうかを検証するのが先になりますよね。

[吉永委員]

それは中間報告なり随時アンケートをとっていくわけでしょう。終わらせて結果ということにしないで。

[中園会長]

例えば来年の3月に2年間したときに、どこがよくなかったという部分を途中で変えないといけません。例えば1,500円とっている人、これじゃやっていけないとなったときに2,000円に変えるわけにいかないでしょう、

[吉永委員]

だから1,500円じゃやっていけない数字なのかということですよ。今の中で問題は金額の問題があって、管理者の問題ですね。最低ラインで、1,500円で何台あればペイするかですよ、人件費として。

[松村委員]

まだ電気代も決まっていらないんですよ。何ワットで申し込んであったかわからないものから、勿論電気代も利用料金で全部払うようになっていますので、そういうのが、まだ、契約書がもらっていないんですよ。写しをですね。照明時間が何時間ということで計算して、ひと月いくらぐらいと予測で。九電に申し込んだだけです。

[小森田委員]

おっしゃるように決算がありますから、1年を区切ってやっていったほうがいいんじゃないですか。

[中園会長]

1、2ヶ月するのは利用者も不利益だと思うんですけど、一応、年度ごとに考えますので、3月までにしても、そうご迷惑ではないと思うんですけど。

[小森田委員]

そっちのほうがいいんじゃないですか、今のような話だったら。後でまた、おかしくなりますよ。

[松村委員]

契約は1ヶ月間の定期だったら1ヶ月、3ヶ月だったら3ヶ月しかしません。そうしないと定期を持っておられる間だけを、きちんとパークアンドライドの利用者としないと、おかしくなるんです。

[吉永委員]

2月に3ヶ月分の定期を買われたら3ヶ月になるんですね。

そうです。ですから、その辺があるものだから。それでも継続で、お客さんが例えば2月に3ヶ月といたら、5月までですよ。ですから、その人たちについては、そのままの金額で売るという形です。定期も売って、パークアンドライドも使ってくださいというしかないんですね。2月で3月いっぱいですというと、とてもお客さんは、えーとなって、そこでまた新たな料金が設定されますよといたら受けきれないです。

[中園会長]

一応7月から実験ということですので、ある程度決めとかないといけないんですけども、事務局でこれで行きたいというのを言っていただきたいと思います。

[事務局]

それでは、7月から3月までの実験の利用者を募集して、もろもろのアンケートには協力していただくと、条件をつけさせていただき利用者を募集するというので、例えば、先ほどあった定期が3月、4月以降に回った分にしても、いったんは、3月でパークアンドライドの利用は、更新は別にして、料金は3月末の条件でやります。というような契約の仕方を1回やらせていただいて、4月以降のことはまた、料金等その他もろもろ変更があれば、それでご了承いただくような形で利用者の方にはお願いするしかないと思いますので、とりあえず、今年度3月までの実験対象者を募集すると、引き続き継続利用で協力いただく方は、4月から新たにというような考え方でしていただければと思いますけども、ど

うでしょうか。事務局としてはそういう考えなんですけども。

[中園会長]

あと、溝上先生がおっしゃっていたバスからの乗り換えの人たちに対する対応はどうなされますか。

[事務局]

それは、マイカーからの乗り換えを基本という風に、ここで話が出ておりますので、それは条件に入れたと思います。

[松村委員]

募集するときにその条件を設定で募集するということですね。

[中園会長]

優先します。ぐらいでしょうね、あんまり人が集まらないといけないでしょうから。それだけ書いておくと抑止力はあるかと思います。

[事務局]

ということで、チラシと広報誌の原稿もそういった意味合いにちょっと手を加えて、実験の協力をいただける利用者を募集するというような意味合いに変えていきますので、よろしく願いいたします。

[中園会長]

そういうことで、市内市外の割合とか料金はこれでよろしいでしょうか。一応これで決定させていただきたいと思います。全体的にご意見がありましたらお願いいたします。無いようでしたら、議題につきましては以上の通り決定させていただきまして、あと、その他ということで事務局からお願いします。

[事務局]

その他ということで、交通協議会の議案として、直接は関係はないんですが、交通の分野ということで、お手元のチラシにエーネーション熊本開催ガイド案という両面のA4縦のものがあります。これは市のほうの農業公園カントリーパークを会場としまして、エイベックスという会社が大きなイベントをやるところです。エーネーション 2009 ということで、これは8月1日になりますけども、これは全国から2万人規模の来客があるということで、これは今までにない大きなイベントになると思います。で、交通渋滞とか公共交通機関の利用、そういったのが多くなると思いますので、これは情報としてこういうイベントがあるというお知らせと、こういったものについて、市としては、今日はこういうイベントがあるというお知らせなんですけども、事業者さんとして、取り組みがやる計画が今の現在で

分かれば松村部長のほうからこれに関して、事業者さんの取り組み状況とか、そういったのをご案内いただければと思いますので。

[松村委員]

私どものバスと鉄道です、お客様を農業公園までお運びするような状態になるかと思うんですけども。ただ、当初は駐車場がなくてですね、これは大変だと思っていたんですけども。予定では2万人だそうです。そして、約3,000台ほどの駐車場が確保できたということで、これはあくまでも予測なんですけども、大体乗りあわせで1台3人ぐらい乗ってくるだろうと、そうしますと、9,000ぐらいは自家用車で駐車場ですね、そちらのほうで何とかなると、ツアーバスこちらのほうで1,000名ちょっとだそうです。といことは合わせて1万ちょっと。それと、言うならば熊本県内とかそういう方は親御さんが、中学生とか高校生とかたくさんいるみたいですので、こちらを送ってくる人間が2,3000人ではないかと。2,000にしても8,000名ぐらいを当社の路線バスと貸しきりバスとか電車で運ぶというような形になるということ。ただ、お昼からですね、会場のほうですね、一応前座があるみたいで、その第一弾の第1回目の人々のピークがくると。そして、始まったあと、本番が始まる前に人が来ると、というような状況が福岡とかそういうところで見受けられていると。ですから、これについては同じようなことになるのではないかと。ただ、自家用車も相当来るはずですので、付近の方の出入りとかですね、大渋滞になるのではないかとという予測です。我々も路線バスとか定時で動けるかどうかとか不安な要素は抱えております。ほとんど農業公園のイベントと一緒にみたいで、植木市とかですね、動かない状態が出てくるのではないかと、そういうのを危惧しています。ただ、約8,000ぐらいですので、鉄道で1時間に約2,000しか運びきれません、最大で。バスが2,000と鉄道が4,000運んでも2時間は最低かかると、いうところですかね。それと帰りが終わったら20時30分が終電です。ですから、その後が、2万人がいつへんに出るということですから、その時がまた相当な渋滞が予想されるのではないかとということです。我々としては今のところまだ、そこらへんまでしか情報がいけなくて、今からどういう経路でおいでになるか分からないものですから、JRさんと話しをしたり、鉄道部分はやっているというところ。以上でよろしいでしょうか。

[松永委員]

市のほうで掘んでおられる人数が2万人、電鉄さんも2万人とおっしゃっていますが、私が最初に情報を得たときには3万ないし4万人と言っていたと。で、農業公園ですね、2万3千人ぐらいが適当な観客動員、2万3千ぐらいが適当ではないかと。ただし、私がこれ以外の資料をいただいているのにはですね、このイベントが大体2002年から始まっておるそうですね。過去7年間ですね、2008年まで、7年間で観客総動員は200万人は越しているらしいです。毎年20万人以上の動員、今年も4会場、5会場ですかね、熊本会場を入れて、と、単純に割っていけば4万人という数字になってくるわけです。あるところからの情報によると、チケットが2万以上は出ているらしいです、現在が。ということは、2万

人というのほどこから割り算した数字かと、それ以上きた場合の対応はどうするかと。交通とはまた関係ないですけども、この朝日放送からでている文書によるとエコバックを配って、そしてゴミは持ち帰りということになっていますけど、こういう大きなイベントのとき一緒に放り出すというケースが多くなります。交通問題、ゴミの問題とか、ここでどうする問題ではないかもしれませんが、まだ大きな問題がこれには含まれていると思います。市のほうも得られた情報は随時流していただくようにしないと、ただ、想像だけでいくと、かえってそれによる混乱を招かねないとも限らないということをおきたいと思います。

[中園会長]

ありがとうございました。今日は交通関係の方がお集まりということで、一応お知らせをしておきました。市のほうでも一生懸命やっておりますので、よろしく願いいたします。それでは議題のほうはこれをもって終わりたいと思います。どうも長時間ありがとうございました。

[事務局]

長時間にわたりありがとうございました。それではこれをもちまして地域公共交通協議会を閉会とさせていただきます。お疲れさまでした。

4. 閉会 (11 : 45)